日本行動計量学会会報
第18号
1979年5月20日
日本行動計量学会
運営委員会広報係
(〒106) 東京都港区
南麻布4－6－7
統計数理研究所内

隣り付合いの記

丘本正

巻頭言が私事にわたるのは不適当かも知れませんが、私は大学の数学科を卒業し、しばらくして統計学を専門とするようになりました。学会で言いますと、日本数学会が本籍、日本統計学会が現住所というわけです。この比喩を続けるとき、日本行動計量学会は私にとって何であるかという問が出て来ます。ある晩眠れぬままに、この問を考えつめて、得た答は「隣家」でした。

本学会を隣家としか考えない人間が、会報のこの貴重な紙面をふさぐのはけしからんという声を予想して、急いで釈明します。この「隣」は「隣りは何をする人ぞ」というような心もとない関係ではなく、困った時には米や塩を借りに行けるような親しい間柄です。また、両家の間には境界領域と言いますか広い敷地があって、食用に適する野草もあります。

日本統計学会は、まもなく創立五十周年を迎えます。でも由緒があるということは、万事それだけ老化しているということにもなります。私がこの家に移った三十年前は、家の中に新鮮な食物が充満していた記憶がありますが、今はかなり乏しくなりました。狭い家の中の物を皆が分け合って暮している状態です。家族の中には、空気中の窒素から蛋白質を作り出して食料としている人もいます。私にはそのような技能がありませんので、もっぱら自然食品に頼らなければなりません。それで時々隣りへ借りに行き、また野草をつむことになります。

近頃、私は両家の間の土地が非常に肥沃であって、いくらでも開墾の余地があると思うようになりました。これを統計的データ解析という言葉で表現することにします。日本統計学会の中では統計的方法論がかなりの部分を占めていますし、日本行動計量学会の中ではデータ解析のウェイトが大きいと言ってよいでしょう。この両者の関係は、ある場合には競争的になるかも知れませんが、主として相補的であり、この関係が現在よりもっともっと緊密になることによって、両家はそれぞれ大きく発展すると私は信じます。

さて、両家の家風には大きな違いがあります。私の家は何事も格式ばっていますが、隣家は新築間もないせいか自由闊達の雰囲気があって、善悪の問題ではありませんが、それぞれの会報の上に違いがはっきり出ています。この文を書きながら、私は自分がお隣りの座敷へ上りこんで、いつになく冗舌を弄しているのに気付いて苦笑しています。

とにかく、このせち辛い世の中に、こうした隣り付合いが出来るということは、誠にありがたいことです。ただこれが多分に私の個人的付合いであって、両家の全面的な関係でないのは残念です。私がこの付合いから得ているものは、恐らく私の家のだれにとってもプラスであると信じますし、逆もまた真であると思うからです。お隣りの一層のご繁栄と、両家の付合いの発展とを祈りつつ。

（日本行動計量学会理事・大阪大学基礎工学部教授）

五十四年度会費の納入を！

毎回のように学会費の話で恐縮です。まだ納めてない方は、早目にお願いいたします。正会員は四千円、準会員は二千五百円です。

送金は振替（振替番号、東京八－一四八〇五六、日本行動計量学会）をご利用ください。

本年度以前の分を未納の方も、よろしくお願いいたします。

第四回〝パターン認識〟国際会議に参加して

国際会議

大津　展之

この会議は隔年開催で今回が四回目になる。昨年の十一月七日から四日間、京都国際会館で開かれた。日本では初めてとあって、国内から多くの参加者を集めた。初参加の筆者も張り切って出かけたが、初日に一、一六三頁の論文集を渡されてまずビックリ。全体像をつかめぬまま、迷路のような超モダンな会場内をプログラム片手にウロウロ……。この報告を安請け合いしたことが悔まれた。かくしていま、重いペンをとる。

今回の規模は、参加国二三、参加者五四六と過去最大であった。ソ連は在日中の一人を除き不参加で、中国が直前に初参加するという日中友好条約にからむ面と、アメリカの欠席が目立つという円高ドル安にからむ面があった。

さて、一般論文二一一、招待論文（各分野のサーベイ）一六が、理論・手法（統計的、構文解析的、クラスター分析、学習、認識モデル）、画像・図形処理（特徴抽出と記述、領域分割、リモート・セ

参加国	人数
日本	377
アメリカ	58
フランス	28
西ドイツ	17
カナダ	10
オーストラリア	9
イギリス	7
スウェーデン	6
その他国	5
計 23	39
	546

ンシング、動画）、音声、文字、医用応用、ハード・ウェアなど、三〇のセッションで発表された。他に四つのパネル討論（うち三つは画像・図形）があり、オープニング・セッションでは通産省のパターン情報処理プロジェクトについて電総研の西野博二部長の特別講演があった。

全体的に画像・図形処理関係（特に医用応用）の発表が多かった。これを、パターン認識が具体的応用の段階に入ったと素直に喜ぶこともできる。が、むしろ基礎的問題のカベの厚さに、これまでの技術とコンピュータの発達にモノをいわせて成果の出やすい応用分野へ殺到したとみる方が当たっている。特に日米の発表が多かった。

応用志向の現れか、理論面でも伝統的な統計的特徴抽出や識別法の話に比べ、NN-ruleなどのノンパラメトリックな話、階層的識別法、また特にクラスタリング関係の話が多かった。この分野では、フランスを始めヨーロッパ勢が目立ち、前述の日米の傾向と対照的であった。これをヨーロッパの立ち遅れと決め込む意見と学問の深さと感心する意見とが聞かれた。

筆者は、その中間で、今後のパターン認識の成り行きを認識した気がした。つまり、多変量解析的手法と高度に発達したコンピュータ・システムの、人間と環境にかかわる広範な具体的かつ総合的な応用の上での融合である、とみたい。もっとも、これは本学会の一会員のはなはだ身勝手な意見かも知れない。しかし、本来共通した方法をもつパターン認識と多変量解析の両分野の交流は、あまりにも少な過ぎたし、今回散見した歩み寄りの図式、たとえば（アメリカ的手法）画像分割 ⇅ クラスタリング（フランス的手法）は、この方向の近いことを感じさせる。

詳細は電話帳みたいな論文集に譲り、独断と偏見に満ちた私の報告を終える。なお一九八〇年、八二年の開催地はマイアミ、ミュンヘンである。（日本行動計量学会会員、電子技術総合研究所）

一九八〇年国際地理学会（IGC）にご参加を！

お願い

奥野　隆史

私は日本行動計量学会の会員です。昭和五十五年に国際地理学連合（IGU）が国際地理学会（IGC）を東京で開きますが、私が関係している日本地理学会は、これを主催することになっています。そのIGCにおいて私は地域の問題の定量分析に関する部会のコンビナーになっており、Working Groupの会を昭和五十五年八月下旬に名古屋大学で、またMain Sessionの会を九月上旬に東京で開くことを決定しております。

この部分は、行動計量学会の会員の皆さんにも関係ある課題が取り挙げられますので、多数の方々のご参集を期待しております。

つきましては、計量分析の部会にご参加・ご発表を希望される方は、〒三〇〇―三一一 茨城県新治郡桜村天王台、筑波大学地球科学系 奥野隆史、℡（〇二九八）五三―四四〇二 まで、ご連絡ください。

（日本行動計量学会会員）

次期役員（理事・監事）の選挙について

選挙管理委員会からのお知らせ

次期役員（理事・監事）選挙を次の要領で行います。棄権のないよう早目の投票をお願いします。

1. 選挙人および被選挙人は、五十四年五月七日現在の正会員八二七名。（準会員と五月八日以降の正会員は除かれます。）
2. 管理委員会所定のハガキによる無記名投票で、理事五名連記監事二名連記とする。（投票用ハガキは、1.に該当する正会員にだけお送りします。）
3. 投票締切り日は六月二十日。（当日消印は有効です。）

詳細は投票用ハガキと共にお送りする選挙要領をご覧ください。なお、開票は六月二十三日に行います。従来と同じ方法で得票数の多い順に、理事は上位十五名、監事は上位二名を当選者とします。ただし、理事と監事の両方に該当するものがある場合は理事当選を優先し、監事の選出から除外します。そのため、監事は三位以下が繰りあがって当選者となります。

このあと役員当選者の会合が開かれます。ここで推薦される十五名を加えた計三十名の新理事と二名の新監事が、九月の総会を経て、現役員と交代します。

会議議事録

◇理事会（五月七日）

於　統計数理研究所

出席者　理事・監事　十三名

1. 本年度、大阪市立大学で開催される第七回総会の準備経過について、実行委員長の生澤理事に代って事務局が説明、これを了承した。なお、総会の議事は会期第一日午後（九月六日、午後一時から二時）に予定する。
2. 次期の役員（理事・監事）の選挙を、前回までの様式に従って実施する。選挙管理委員は、芝祐順（東大教育）、柳井晴夫（千葉大人文）、岩坪秀一（電総研）の三氏とする。
3. 昭和五十五年秋に東京で開催される第三回医療情報科学国際会議（MEDINFO 80）に関し、同組織委員会（委員長・大島正光氏）から依頼のあった同会議協賛について、本学会はこれを受諾し、協賛することにした。
4. 欧文誌の増刊に関連して、同誌に対する文部省・学術定期刊行物補助金（昭和五十四年度）の交付申請が採択されたむね、林理事長から報告があった。これにより欧文誌は年二回発行となる。
5. 「行動計量学シリーズ」刊行については、刊行物企画委員会を強化し、既に企画されている分のほかに新しい企画を加え、具体的な刊行準備を進める。
6. 各種委員会報告（編集委員会、運営委員会）

◇運営委員会（一月二十二日）

於　統計数理研究所

出席者　運営委員　十一名

1. 昭和五十三年末に大阪で行なわれた第九回講習会について、担当の井上通敏委員より文書による報告があった。次回講習会は、テーマを多変量解析として担当の委員が企画を進める。
2. 「広報」活動のあり方について意見を交換、当面は会報作成を主にすることとした。会報作成に関して、増ページ、新記事（リレー連載、研究ノート、学術情報、関連学会の紹介、海外印象記、私の著書など）の案が出た。なお広報委員に直井優委員（東大文）を加える。
3. 月例シンポジウム第二十二回（五十三年十一月、総数研）および第二十三回（一月二十日、大阪大学）の開催状況について担当委員が報告。参加者は約五十名と七十名であった。

◇運営委員会（三月十九日）

於　統計数理研究所

出席者　運営委員　十一名

1. 第七回総会（大阪市立大学）の準備状況について、事務局が実行委員会に代って説明。
2. 次回（第十回）講習会は、関西での早期の開催がむずかしいため、東京で行うこととし、担当委員が準備に当たる。
3. 今後の月例シンポジウムの進め方に関して意見を交換、候補テーマとして「政治の計量」、「環境問題」、「データベース」などの領域があがった。次回は、これらを参考して担当委員が企画する。

第三回医療情報科学国際会議（MEDINFO 80 TOKYO）で研究発表を！

案内

昭和五十五年秋、東京で開催される同会議を、本学会は協賛いたします。医療情報科学は医学・医療への情報科学の成果の応用を目的にする研究分野で、同会議では、(A)臨床医学、(B)病院管理、教育、保健、医療計画、(C)情報技術、研究、(D)稼動システム、装置など、幅広い内容が二十六のセッションにわかれています。

本学会の会員が、ふるって参加・発表されるようお願いします。

◎会期　昭和五十五年九月二十九日から十月四日まで。六日間。

◎発表申込み　昭和五十四年九月三十日。論文の提出期限は同年十二月十日。

◎会費　五万円（昭和五十五年六月まで。七月以後五万五千円）

なお、同会議の詳細については左記へお問い合わせください。

（財団法人・医療情報システム開発センター総務課、〒一〇七）東京都港区赤坂二の三の四・赤坂パークビル、☎電話は〇三）五八六―六三二一）

H・J・レンツ教授（ベルリン自由大学）が各地で講演

この六月に、応用統計・品質管理・計算プログラムなどの分野における西ドイツの研究者として著名なレンツ教授が、夫人同伴で来日いたします。

短い滞在期間ですが、〝クラスタリングの効率的方法〟を主とする講演会が各地で開かれます。関心のある方は、ご参集ください。

◎六月二十六日［大阪］

（午後二時、大阪市東区本町二丁目、日本規格協会・南西支部・JISホール）

◎六月二十七日［岡山］

（午後三時、岡山大教養部数学教室）

◎六月二十九日［福岡］

（午後二時、福岡市九電ビル、日本規格協会と九大の共催）

詳細は、同教授夫妻のお世話に当たっている本学会の浅野長一郎（九大理）、脇本和昌（岡大教養）の両氏にお問合わせください。

（九大理学部・浅野氏、電話は〇九二―六四一―一一〇一、岡大教養部・脇本氏、電〇八六二―五二―一一一一）

月例シンポジウム記録

○第二十三回（科研グループと共催）〝臨床と疫学における意志決定とその数理モデル〟（オーガナイザー梶谷文彦氏・川崎医大）一月二十日、大阪大中之島図書館、参加者七十名。

学会誌バックナンバーの購入

在庫不足でおわけできなかった欧文誌の№3も今回おわけする余裕ができました。希望の巻・号名を記入し、代金と送料を郵便振替（1ページ左下参照）で、事務局あてにお送りください。

◇Behaviormetrika №1，№2，№3，№4，№5（いずれも、二千円）

◇行動計量学1巻1号（八百円）2巻1号・2号（各七百円）、3巻1号・2号（各一千円）、4巻1号・2号（各一千五百円）5巻1号・2号（各一千七百円）6巻1号（一千二百円）

◇送料　一冊（二百円）、三冊まで（三百円）、五冊まで（六百円）

なお、行動計量学1巻2号は、もともと発行されておりません。ご注意ください。6巻2号は現在印刷中です。

過去の総会発表論文抄録集や講習会テキストの残部もあります。希望者に有料でおわけします。ご連絡ください。

◎会員（五月十日現在）

（正）八二七人（準）一五九人

（賛助）三二法人

編集後記

◆〝国際化〟の波は会報にも及んで、国際交流に関する記事が号を追って増えています（例えば2・4ページ）。そんな中で欧文誌の刊行補助金が貰えることになり、念願の欧文誌年二回発行がスタートします（3ページ参照）。欧文論文の積極的投稿が待たれます。

◆欧文誌の倍増をまねるわけではありませんが、会報を増ページしたら…の声があり、内容案もいろいろ出ています（3ページ参照）。こちらの方は、「お金」の問題はまずありません。先立つものは「記事」…、記事さえ豊富なら倍増はいつでもできるでしょう。

◆雑報、紹介、感想、なんでも可ですので、どうぞお気軽に記事をお寄せください。（水野記）